

令和7年4月吉日  
第26回 沖縄県理学療法学術大会  
大会長 安村大拙

## 大会に向けて

大会HPをご覧ください、誠にありがとうございます。

この度、第26回沖縄県理学療法学術大会を2025年11月15日（土）、糸満市観光文化交流施設くくる糸満で開催します。開催形式は近年の学会開催形式や社会状況を鑑み、数年ぶりとなる現地開催（オンサイト開催）としました。

近年の大会は沖縄県内会員以外にも、沖縄県外からの参加者が100名近くおり、昨年大会は総勢700名を超える参加エントリーがありました。本学会への参加者層は理学療法士を中心とし、国政を含む行政関係者、教育関係者、研究職、学生など理学療法に関わるネットワークから幅広い分野に渡ります。

大会テーマは、『レジリエンスを高め、それぞれの未来へ』としています。

レジリエンス（resilience）は、経済紙フォーブスが2021年の言葉に選択したことが記憶に新しいかと思います。

この言葉が指すところは、回復力やしなやかさ、再起する能力など様々です。

時代を生きていく・生き抜く上では予期せぬ困難があります。理学療法はそのフィールドを年々広めていますが、周辺環境も凄まじいスピードで刻々と変化しています。

直面するリスク、外部要因にさらされながら、個人や組織の多様な価値観で時代に適応していくしかありません。

県学会の存在意義はそれぞれの中にあり、まさに多層性・多面性であると感じます。それが国内学会、国際学会、研究、臨床に置き換えられても同様です。

どの領域にいても、立ち位置を俯瞰し、謙虚に努力を怠らず、小さな蛙にとどまることなく外部に接し続けることは肝要と思います。

大会実行委員長の島袋公史、副実行委員長の島袋みちるを中心に、多彩なプログラムを準備し実行委員一同お待ちしております。症例発表・組織マネジメント・地域活動・教育・研究データ解析など、様々な内容の演題エントリーを歓迎します。その中から最優秀賞、優秀賞、若手奨励賞などアワードも選出予定です。

皆様にとり、レジリエンスを持って柳のようにしなやかに生きる一助として、世界の大海に挑み続けたうみんちゅの聖地糸満に、お気軽に足を運んで頂けると幸いです。